

江湖新聞

第四號



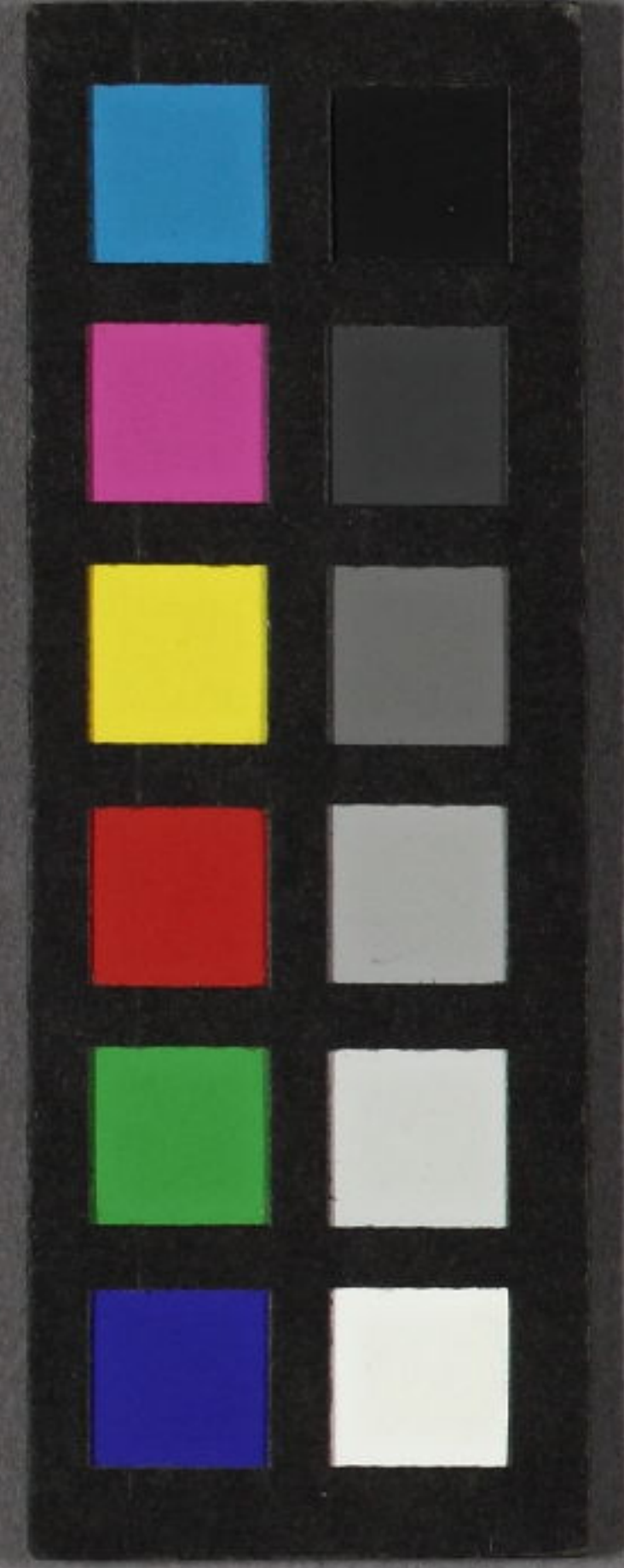
定價八分

西垣文庫

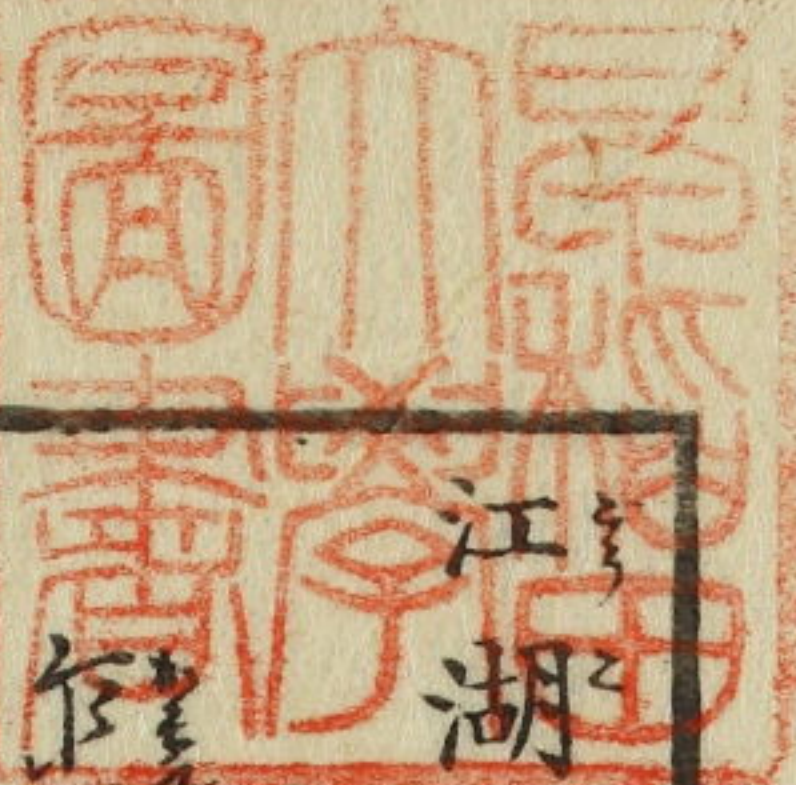
文庫 10

7287

4



持 文庫10
7287
4



江湖

新聞第四集

戊辰閏四月九日



海軍より發出の上書之由
仕是迄卧薪嘗膽涉恭順之涉趣意謹白相与伏在
朝裁出此等條約所履跡 所裁許有之簡条中
江戸株尾藩領地所裁出条と 所裁許領地未だ相定
不中州中々軍艦軍器不裁涉兵上々裁出占之式条
二月過日海陸海軍一同より督府軍門送致書一封大久保
一翁勝安房書を以指此の儀也
所思召不身何私忘之矢計の意以尊恐入此所私共一同等也

二月

熟考仕仕之尾藩也

朝令と云々中宗家危急之秋

當りて及る征東師之列に加りて倫之心好方と二同其る

右様之藩士執 徳川家之料理以て一市を

乍兄交我累代活世之民一同唯之とて其命以換る

身一人倫之大義隨地比由己多々後名に執

徳川内家名相存の代天實の是を限り高武百六十余年

所為圖也一朝水之泡と物欲のハ乍怒之尺之童子も能

無一活の儀も此後將又軍艦軍器の執

徳川家保護も皆る早竟今日苦ある為と其存留

何事以て 内家之存亡おろし中

天朝に彼及上り振るる上

河累代操縦

く産もお立ち中下ハ私大一同是迄く此後幾の時

志にお戻りぬい中上ハ迄も其も夫も似る一同断然

決心仕人倫之大義を踏之條理も有無を無一に或々

条涉許容有之ハ迄暫く此所一免拒一居ハ也

兵に對し粗暴之儀も毛頭不仕ハ只管

朝令にお改り人倫之道相立ハ迄歎形も立ハ若又

私共一同之歎歎相費き不中其ハ乍微力奉り宿然

とて相もあり六十餘抄く海上海岸

相見え弟中換て仕公海舟

天朝の勿論諸藩領海峯并船印を交る船より
手出し仕る安ん其も是迄々奪き
河号諭之等皆此の船を運用仕り奈撥發難求
之罪之存るゆども私共一同に心事の地下と
河軍代様のて中上り忠懐謹令

辰巳月

河家海軍

- 静寛院宮様の田安河殿の天璋院様の二橋河殿の涉立退と把
以慶河の東方横江道に涉殿謀言の在河利意及び之の款止一橋
殿の橋江以下在慶一以結核殿は手撰り付以普請及び以慶
大之次才三付以此事以元合せお取の款
- 七日橋本少将殿 静寛院宮様の涉河殿及び以西舎と一七
田安涉殿一以出お取
- 北園筋佛徳之撤文あり是の淨出美宗とののり子に在るお取
天下太平佛道具隆之八字并念佛の六字を籤の中へ書
之と表紙と一文中の佛款するものにとりて一の款意を記り
奉宣儀のむと判然とて以暫く後報を待つ

工明

十八

三月廿三日京都より宗對する一舟達之旨

宗對する旨

今般

王政一彰總而外國交渉際之儀

朝廷交渉報答の在り付る朝鮮國之儀より來

性之國攝益涉威信を以て之

浙省船舟是迄之通りあり交通を以て換家後

令以對朝鮮必涉用筋を以て外必奉養補之

以之似るに於て勅令條法 修舟也

濟國威を以て換之較る力

涉沙法之事

但

王政一彰之打極海外之儀別々原く於て乃四擊

第一洗滌一此發濟督公可有之奉

三月

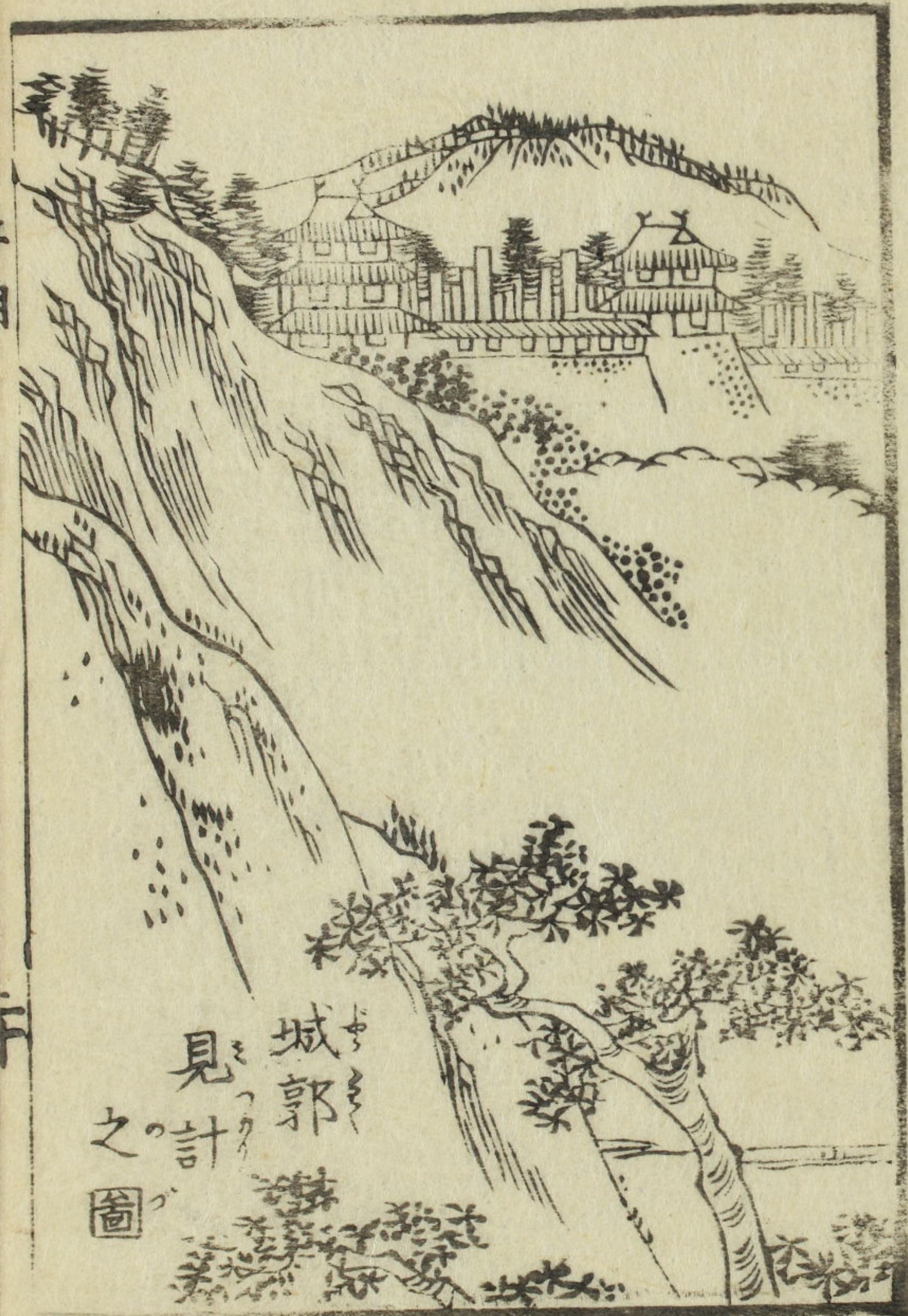
○去二日安戸回乘女正并 許原式於左補之方藩以不實

之慮有之付先律免一以百捨多以分及至一法旨督

府冬條々お達以教表家為子居今回安殿の届出免申

○當首撲漢洋泊之外國高船廿之艘内英船十二艘日亮

御船一艘亞宋利加船一艘日亮折船二艘蘭船二艘壹偏生



城郭見計之圖



船一艘

○ 猿若町之丁目新屋中村屋之中 茶屋に於て道日佛儀集會終
 義を更相儀の儀り兜軍紀中村芝野の阿古を海村納本の言志
 市村家檔の岩永と掛合と降りりてあり

○ 新若茶町の幫簡宇治森兵を更り去れ六日友軍分會計掛り
 比辺岩方相山某の友人上系村足送り止て不川跡迄茶鼓更り
 友人の供後之書子一の重子紙を抄一應撰出左致しり

○ 同而拉女屋 尾張屋 権田屋 中義字屋 誠子屋 森里屋
 五家去れ六日戸をとお成是の若茶町中合せより過分と割合せ引
 茶屋の巻し小紙お支一規定お破りゆ故ありとぞ

